

<5>総合福祉学科3年 卒業研究発表①

「パラスポーツへの関心はどう生まれるのか

～専門学生への意識調査と発信実績～

赤堀りろ、増田菜々、菊池心暖、櫻井綾乃、小田啓太

<6>総合福祉学科3年 卒業研究発表②

「動物との共生から考える【自分らしい】生き方」

石川智恵、齋藤瑠奈、杉山敦哉、須山宏紀

田村美羽、山崎結愛、湯本 菜、和田桃佳

<8>CANスカラシップ活動報告(学生12名)

横山颯人、大石朝陽、小塩凜花、柴田乃亜、村田百合愛

山本弥侑、赤堀りろ、増田菜々、関山菜李、望月咲来

北原彩愛、竹澤胡桃



○講師の方々からのご講評より

<1>

非常に元気で、分かりやすいプレゼンだった。家に帰りたい、という利用者様に対し、「なぜ」「どうして」というエビデンスを考えられたこと、また実施した計画が失敗したがそれに対し「何がいけなかったのか」を模索できたことは、必ず今後の力になると感じた。

<2>

利用者様の好きな野球や大谷翔平選手を取り込み、プランを実施したことは素晴らしかった。認知症の方だから問題行動を起こすところらが決めつけてしまうのではなく、その時の利用者様の気持ちを理解しようと近づいていくことが大事で、今後絶対に必要な経験ができたのだと感じた。

<3>

非常に聞きやすく、分かりやすい発表だった。網膜剥離という症状だが、そこばかりをクローズアップするのではなく、その方の患っている病気や癖や生活歴など、様々な要因からその方をとらえていくことで、進行や治療方

法も変わってくるという大事な点に気付けたことは素晴らしいことだと感じた。

<4>

静岡といえば、「お茶」だが、あえてそこに着目し、今の若者や子供がお茶離れしていたり、実際に急須でお茶を入れないことに驚きを感じた。お茶がもたらす効果や可能性について考える機会になった。お茶に対して関心が改めて湧いてきた。飲むだけでなく食す等、お茶を多くの人に進めていきたいと強く感じた。

<5>

パラスポーツ(パラリンピック等)をテレビ等で見る機会はあるが、身近で見るとは少なく、実際に自らやったことがないため、体験を通してまずは自らの関心を引き出し、それによって周りへの訴えかけに繋がる、ということはその通りで、良い気付きに繋がったのではないかと。アンケートを通して、パラスポーツがまだまだ浸透していないことが分かり、パラスポーツの浸透をみんなで取り組み、生涯スポーツとして身近に感じる物にしていきたいと感じた。

<6>

アニマルセラピーを取り入れている施設や病院は多々あり、その効果や可能性は立証されているが、誰も同様の効果があるとは言いきれず(動物が苦手、衛生面やにおい等)それも理解しなければいけない。うちの法人でも職員の飼い犬が介護士として出勤している、というユニークな取り組みを行っているが、共に共存していく仲間として、お互いの理解と歩み寄りをしていくべきだと感じている。動物にとっても居心地の良い環境にしていく私たちの努力が必要なのだと感じた。

<7>

スカラシップの方々とは1年を通して、それぞれ自分たちができる取り組みに真摯に向き合い、大きな成果を挙げることができたのだと感じた。視能訓練士の方は不要なメガネのリサイクルや知名度アップに向けて、子ども心理学の方は学年を超えた縦の繋がりからアクティブラーニング(親子フェスタや児童クラブ訪問など)、総合福祉学科・介護福祉学科の方は防災知識や施設的环境整備への取り組みなど、どれも本当にすごくて感動した。こういった活動をこれからも続けていくことで、地域に根差した専門学校として、更に大きく飛躍していくと感ずることができた。



「卒業研究を通して感じたこと」

ITゲーム&ロボットシステム学科2年 木村 健太郎

私たちは生成 AI を利用して髪型・髪色を自由に変える、「AI Hair Simulation」というウェブアプリケーションを制作しました。

制作を通して AI の進化と制御の難しさを学びました。近年使用されている生成 AI は瞬時に画像生成を行えますが、AIらしさが残ってしまう部分がありました。使用している画像の特徴を維持しつつ、髪型・髪色だけを自然に変えることは、最初は苦労しましたが、改善を重ねていくうちに自然なシミュレーションが可能になりました。

また、このウェブアプリケーションを実際の店舗で使用していただき、「技術を形にする楽しさ」と「実用の難しさ」を肌で感じました。

店舗の方からは完成後のイメージがわかりやすい、AIらしさが少ないなどといったお声をいただきましたが、一方で髪のダメージが考慮しきれていないなどの AI が判別しづらいところの課題が見えてきました。実際に使っていただき AI は画面の中で完結するのではなく、使う人や環境に合わせて調整する必要があります、それを経て AI の本当の価値が生まれるものだと学びました。

これからの時代 AI が必須になってきますが、今回の研究の経験を糧に、AIと共に進化し続け、社会に貢献していきたいです。



「卒研・ゼミナール発表を終えて」

音響&映像メディアクリエイティブ学科2年 川手 逸暉

私たちは卒業研究として音楽ライブの企画・運営を行いました。リーダーとしてクラス全員をまとめる責任の中で、一つのプロジェクトを完遂させたことはとても良い経験となりました。

クラス内での意見をまとめながら役割を分担し、全体の進行を把握、指示を出すことはとても大変でした。その中で、外部のアーティスト様やライブハウス、高校と連絡を取り、少しずつ形になっていくことに喜びと同時に、思い通りに進まないことへの焦りも感じていきました。特に、今回は例年と違い「ゲスト出演枠の新設」、「オンラインチケット販売」に挑戦しました。

当日、本番の中でアーティストの方から来場者に向けて「このイベントの主役は自分たちではなく、運営をしてくれている学生たちです。」という言葉を出していただいた瞬間は今までの苦労が報われる気持ちでした。

音響&映像メディアクリエイティブ学科として恒例的に実施をされている卒業研究のテーマではありますが、発表時の講評でもいただいた通り自分たちの経験を後輩の皆さんに受け継いでより良いものにしていくって欲しいと感じています。また、この経験を社会に出てからも活かしていきたいと思ひます。

「卒業研究を通して成長できたこと」

総合福祉学科3年 増田 菜々

私は卒業研究を通して、大きく三つの成長を実感している。一つ目は、最後までやり抜く力である。テーマを決めてから、アンケートの作成や依頼、集計、分析、SNSでの発信など、初めて経験することばかりだった。思うように結果が出ず悩むこともあったが、仲間と話し合いながら試行錯誤を重ね、最後まで形にすることができた。この経験は、自分の自信につながった。

二つ目は、多角的に物事を考える力である。学生への調査だけでなく、IAI バラスポーツパーク様の協力のもと、選手や指導者の方の思いにも触れたことで、立場の違いによって見え方が異なることを学んだ。一つの結果だけで判断するのではなく、「なぜそうなるのか」と考える姿勢が身についた。

三つ目は、主体性である。自分たちで企画し、行動し、発信する中で、「誰かがやってくれる」のではなく、「自分が動く」ことの大切さを実感した。研究は大変だったが、それ以上に多くの学びと達成感を得ることができ、それを集大成として表現することができた。この経験を、これからの福祉の学びや実践に生かしていきたい。

「外国人子育て家庭の悩みや対策について」

子ども心理学科3年 榊原 靖教

私は、外国人の幸せについて研究しました。教育水準の高い日本に憧れて来日する方、労働者としてむしろ来日を乞われて来る方、そんな彼らが、異国の地『日本』で幸せに暮らすために、私達にできることは何か、突き詰めたと思いました。

私は、様々な支援機関を訪れました。静岡県多文化共生総合相談センター「かめりあ」の相談員に「日本人ももっと外国の文化・習慣を理解してほしい」と言われ、ハッとさせられました。日本で生活するのだから、日本のルールを守ってほしいと思っていました。しかし、共生するにはお互いが理解し合う事が大切であると気付かされました。そのためにも、交流を持つことが必要であり、自治会活動に外国人を巻き込むなど、共に行動する事で、「あなたは、私達と同じ地域の住民だよ」と、メッセージを送ることができます。また、「自分の物差しを疑う」事が大切であり、私達が普段思っている当たり前は、外国では必ずしも当たり前ではないことも多くあることも忘れてはなりません。

この研究を通して、外国の文化・習慣を理解する事に努め、共に交流する事が、共生するためには大切な事だと学ぶことができました。

「症例報告を通して」

視能訓練士学科3年 大石 朝陽

症例報告を通して、伝えたい内容を相手に的確に伝えることの難しさを学びました。

限られた時間の中で、専門用語を使わずに疾患や検査について説明し「健康診断」というキーワードをどのように伝えるかについて大変悩みました。実際の現場においても、来院される患者様に対して、これから何を行うのかを理解してもらえるように説明することが求められます。

臨地実習での検査説明の経験から「何を最も伝えたいのか」を考えることで、健康診断の重要性と症例報告をうまく結びつけることができました。

入学してからの三年間、学校や実習を通して学んできたことを詰め込むことができた症例報告であったと思います。また、他学科の発表を聞くことで、福祉の面についても多くの学びを得ることができました。

今回の経験を活かし、探究心を忘れず、学び続けることのできる視能訓練士を目指していきたいと思っています。

「ケアスタディ発表会を終えて」

総合福祉学科2年 佐野 七星

今回ケアスタディ発表会実行委員長を務め、経験できたこと全てが貴重な体験ばかりでした。学生主体のため自分達でスケジュールを管理したり、意見の食い違いがあれば相談し合ったり、焦りや不安も募りました。しかし発表会が近づくにつれ、各々がどうしなければいけないか、今何をすべきか、考え行動することができるようになり、バラバラだった気持ちが「ケアスタディを皆で成功させる」という目標に向かって一つとなっていきました。そして発表会当日は一人も欠けることなく、自分らしい自信を持った発表に繋げることができ、達成感を得ることができました。

発表に対しては一人一人が工夫して利用者様に対面し、利用者様のその日の機嫌・体調などにより計画の実施が出来なかった場合にはどのような対応を行ったのか等、様々な発表を聞いたことで、改めて皆に対し尊敬の念と感動を覚えました。来年度は就職活動やソーシャルワーク実習等がありますが、今回の経験や周りへの感謝を忘れず、一つ一つ確実にクリアしていきたいと思っています。

「ケアスタディ発表会で学んだこと」

介護福祉学科2年 石川誠也

2月25日にケアスタディ発表会がありました。介護福祉士の国家試験が終わった次の日から、ケアスタの準備が始まりました。最初に先輩方が残してくださったのを参考にし、原稿を作りました。初めて一人で作ったのですが思うようにいきませんでした。先生からアドバイスをもらいながら原稿を作

り、ケアスタの冊子をみんなで完成することができました。次にパワーポイントの作成と発表用原稿の作成に取り組みました。パワーポイントでは、発表を聞いてくださる人に一番伝えたいことが伝わるようアニメーションを使いながら工夫しました。25日までに無事に終わることができました。当日は、理事長・校長先生をはじめ総合福祉学科・介護福祉学科の先生方、晃の園施設長 川崎様、なごみ実習担当 菅野様・先輩後輩が聞きに来てくださいました。発表が始まるまですごく緊張していましたが、無事にこの専門学校生活の集大成でもあるケアスタディ発表を終えることができよかったです。働いてからもケアスタで学んだことをいかしていきたいです。



3月の行事

- 1日(日) 文化祭・学園祭
- 2日(月) 文化祭・学園祭振休・床面清掃
- 5日(木) 進級・卒業判定会議
- 7日(土) 第4回入学選考
SPオープンキャンパス13:15~
- 12日(木) 登校日(全学年)、大掃除
- 13日(金) 同窓会入会式・幼稚園卒園式
謝恩会
- 14日(土) 終業式、卒業式
- 20日(金) 春分の日
- 23日(月) 新入生オリエンテーション
(E10:30 W13:00 豊岡W終了後)
- 26日(木) 第3回法人理事会、新旧歓送迎会
- 28日(土) 最終入学選考
SPオープンキャンパス13:15~
- 31日(火) 新入生オリエンテーション
(未参加者)
職員会議、保育園「お別れ会」